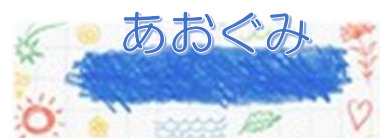


教育・保育目標

★年長組（5歳児）★

- ・園生活を十分に楽しみ、充実感や達成感を味わう。
- ・様々な活動に目標を持ち進んで取り組む。



リレーやドッジボールは、子どもたちが大好きな遊びの一つです。楽しみながらも基礎体力を高められるように工夫したり、より楽しくするにはどんな風にしてみようなど…子どもたちと保育者が一緒に考える時間を作っています。



伸び伸びと行動することで充実感を味わえます。



自分たちでルール作りをすることにより、ルールを守る大切さに気づき、友だちと協力したりしながら遊びに集中！一緒に活動する楽しさを知ります。保育者は見守りつつ、子どもたちが話し合う場面を作ります。自己表現や自主性、思いやりの気持ちを育て、人と関わる力を養います。

★年中組（4歳児）★

- ・いろいろな活動の中で保育者や友だちに自分の思いを伝えようとする。
- ・友だちと一緒に考えたり、工夫をしたりしながら遊びを楽しむ。



トマトの成長を通して、観察することの楽しさ、世話をすることの大変さ、収穫の喜び、食べ物を大切にすることを体験しています。



「トマトって喉が渴いたらどうするの?」「雨の日にお水飲むのかな?」「じゃあ晴れの日はお水をあげよう!」と、自然の不思議さを感じ、考え、動植物の生命に気づき、いたわる気持ちが芽生えます。



「赤くなったかな」「もう採ってもいいかな」と毎日観察。真っ赤になったトマトはみんなで収穫し、いくつ採れたか数えてみたり、最後には「いただきます!」少し苦手だったお友だちも美味しくパクり!満足笑顔でいっぱいです。



★年少組（3歳児）★

- 身の回りのことができるようになり、伸び伸びと園生活を楽しむ。
- 保育者や友だちに親しみを持ち、友だちと触れ合いながら安心して自分のしたい遊びに取り組む。

入園して園生活に慣れ始めると、自分で好きな遊びを見つけ出し、楽しく集中して遊ぶことができるようになります。



保育者は、友達とともに過ごす喜びを味わえるよう一緒に楽しめる遊びを提案していきます。
人との親しみや関わりから人への優しさや信頼感がもてるようになります。

「おはなし おはなし…」
どこからか「せんせいごっこ」が始まりました。ごっこ遊びは、言葉や他者との関係性、コミュニケーションの取り方など学びへの始まりです。

★満3歳児★

- 園生活を知り、活動や遊びを楽しむ。

毎日の生活の中で何かをするするとき、必ず指先の動きが必要になってきます。（靴を履く・脱ぐ・衣服の着脱・ボタンなど…）
子どもたちが楽しく飽きることなく、ひとつひとつの動きをつなげ身に付けていけるよう工夫し、いろいろな遊びの中に組み入れています。



ロープにクリップを取り付けたり、「これはどこかな〜？」と友達と探しながらケースにキャップをはめ込んだり…
指をしっかりとつかって遊べる手作りおもちゃです。
子どもたちがしっかり遊び切ることで指先の使い方を覚えていきます。

ボタンの着け外しやお箸・鉛筆の持ち方へと基本的な生活動作の自立へとつながっていきます。

ももぐみ

ひよこぐみ

2 歳児

- 基本的な生活習慣を身に付け、園生活を楽しむ。

様々なことに興味を持つようになり、これやってみる？と保育者が言うと「やりたい！」と言って遊びに楽しんで取り組んでいます。



手や足などを全身で使って大きな紙に絵をかいたり、夏には泡遊びや泥んこ遊びをして楽しみます。「ぬるぬる」「べたべた」など様々な感触を味わい手足の力加減を調整することで、少しずつ指先やつま先まで感覚を養っています。



「気持ちいいね」「楽しかった」など遊びを通して感じたことを言葉にするようになり、友だち同士の様子にもつながっています。

1 歳児

- 保育者との信頼関係のもと、簡単な身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育む。

1 歳児では特定の保育者と日々の園生活を過ごす担当制保育を実施。痛かったとき、寂しくなったとき、不安になったとき、思うようにいかないとき、まだまだ上手に言葉で伝える事が出来ず、泣いて教えてくれることがほとんどの子どもたち。日々の生活の中で保育者に気持ちを受け止めてもらい、共感してもらうことで、安心して、園生活を楽しく過ごしています。



食事・排泄・睡眠・着脱。
保育者の声掛けのもと、毎日繰り返すことで、子どもたちの中に安心感が生まれます。



抱っこや、手を繋ぐなどの感触や感覚、また日々聞きなれた声から、落ち着きや、気持ちの安定を得ることができています。



0歳児

- 生理的欲求が満たされ、安心して過ごす。

0歳児では、保育者との触れ合い遊びや一人ひとりに沿った保育を行っています。子どもたちにとって初めての発見や経験を共有し「すごいね」「楽しいね」と一緒に喜んだり、楽しんだり、共感しながら、毎日過ごしています。このゆったりした生活が子どもの情緒や身体的な成長に繋がっていきます。見て、聴いて、遊んで、たくさんのかたちを経験できるように心掛けています。



まだ言葉を話せない子どもは、興味のあるものをじっと見たり、覗いたりして思いを表現してくれます。保育者の前に座り一生懸命に顔を見ていることも多くあります。保育者は子どもの表情を捉え、一緒に見たり笑ったり喜んだりして共感しています。また大きなイラストの絵本を使い、目の前の子どもと気持ちを合わせ、やりとりを楽しみながら読みあいをすることで、子どもと保育者の愛着を深め、心や言葉の発達を豊かにします。

